

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和8年2月13日

多摩市議会議員 おにつかこずえ

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

## 質問項目

- 1 多摩市役所保護猫譲渡会について
- 2 子どもを性犯罪から守る日本版DBSについて
- 3 高齢者を詐欺電話から守る対策について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和8年2月13日	No. 1 1
	午前3時16分	

## 1 多摩市役所保護猫譲渡会について

1月17日二回目の市役所保護猫譲渡会が行われました、私もスタートから参加して保護猫団体の皆さんや参加された方々のご意見を伺いました。人数の多さを見ても関心の高さがわかりました。

お目当ての猫ちゃんが決まってしまうと残念とお話しされてる方が複数いました。今回は時期的に猫が少ないもっと子猫が生まれる時期に開催して欲しいとの意見もお聞きしました。

上記を踏まえて質問致します。

- (1) 参加者の人数、譲渡された保護猫の数を伺います。
- (2) TVクルーも入り撮影されていましたが、どのような目的でしょうか？  
伺います。
- (3) 他市からの視察も参加されていましたが、目的を伺います。

## 2 子どもを性犯罪から守る日本版 DBS について

日本版 DBS とは子どもを性被害から守るために、子どもに関わる仕事に就く際、こども家庭庁に対し照会を申請し、性犯罪歴がないことを証明する事を義務付ける制度で、運用が来年度始まります。他国を見てみると、イギリスの制度は前歴開示、前歴者就業制限機構という公的機関がチェック、性犯罪だけでなく子どもや高齢者など弱い立場にある人と接する仕事に不適切な人を排除する事が出来ます。

ドイツの教育職は良好証明書が必要で性犯罪等の有無を確認出来ます。まだまだ日本は遅れていると言えますが、やっとスタート地点に立てるのではないかと思います。

上記を踏まえて質問致します。

- (1) 該当する職種をお聞きします。
- (2) 子どもに関わるが該当しない職種をお聞きします。
- (3) 市での運用はいつから始まるのか、検索する担当窓口はどこになるか、  
など具体的な連絡は来ているか伺います。

## 3 高齢者を詐欺電話から守る対策について

最近多摩市内にも頻繁に詐欺電話が固定電話にかかって来ています。実際私の自宅にも頻繁に掛かって来てますし、議員控え室にも掛かって来ました。某電話会社や荷物の不在など思わず出てしまいそうになります。特殊詐欺に遭わない為にも、自宅に電話がある高齢者を守る必要があると思います。

上記を踏まえて質問します。

- (1) 詐欺電話がかかって来たと市民から相談を受けた時はどの様に対応致しますか？

- (2) 警察との連携はどのようにされていますか？
- (3) 詐欺に遭わない為に広報、啓発活動はされていますか。伺います。

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和8年2月9日

多摩市議会議員 上杉 ただし

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

## 質問項目

- 1 認知症になってもいつまでも自分らしくいられる多摩市へ
- 2 ベルブ永山の学習スペースと市民活動環境の整備について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和8年2月9日	No. 1 2
	午前11時55分	

## 項目別質問内容

<p>1. 認知症になってもいつまでも自分らしくいられる多摩市へ</p> <p>高齢者福祉は、すべての市民が個人の尊厳を保持し、住み慣れた地域で安心して自立した生活を営むことができる社会を実現するための、地方自治体における最重要課題の一つです。我が国の高齢者福祉は、1963年に制定された「老人福祉法」を起点としています。この法律は、高齢者の生活安定、健康の保持、および社会参加の促進を基本理念として明確に定義し、現代に至る福祉施策の法的基盤を揺るぎないものとししました。</p> <p>その後、社会の成熟とともにニーズは多様化し、1989年に策定された「高齢者保健福祉推進十か年戦略（ゴールドプラン）」により、福祉の基盤整備は飛躍的に進展しました。2000年には介護保険制度が導入され、介護は「家庭の役割」から「社会全体で支えるシステム」へと構造的な転換を遂げ、利用者がサービスを自ら選択する権利が確立されました。さらに、2005年の介護保険法改正では、事後的なケアから一歩踏み込み、重度化を防ぐための「予防重視型システム」への転換が断行されました。これらの変遷はすべて、現在国が進める「地域包括ケアシステム」の構築へと繋がる一貫した流れです。</p> <p>現在、認知症施策は歴史的な転換点を迎えています。2024年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」により、認知症施策は単なる医療・介護の枠を超え、国家レベルの重要戦略として位置づけられました。この法律は、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる「共生社会」の実現を目的としています。</p> <p>政府が定める「認知症施策推進基本計画」においては、「発症を遅らせる」、あるいは「発症しても進行を緩やかにする」が施策の中心として定義されています。</p>
<p>多摩市においても、2011年以降、医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築が中心的な政策に据えられています。具体的には、地域の介護施設での食事提供サービスや訪問医療による在宅療養支援、さらには認知症カフェの運営や地域住民による見守り活動が展開されています。特に、老人福祉館や公民館で開催される講習会や趣味のクラブ活動は、単なる余暇活動ではなく、地域社会への参加を促し、孤立を防ぐためのセーフティネットとしての役割を担っています。これらの場は、住民同士の相互扶助を育み、認知症になっても自分らしく生活を継続できる土壌を作っています。</p>
<p>日本の高齢化率は急速に上昇しており、2037年には国民の約3分の1が65歳以上になると明確に予測されています。超高齢社会において、認知症施策の充実はすべての自治体に関わる課題です。個々の高齢者のニーズに寄り添い、地</p>

## 項目別質問内容

<p>域住民が主体的に関わる仕組みを構築していくことは、政治に課せられた重要な課題です。</p>
<p>以上のことを踏まえ、多摩市の認知症対策についての今後の取り組みについて以下、質問いたします。</p>
<p>(1) 認知症初期集中支援チームからのサポートを受けるにあたって、サポートを受けるまでにどのようなプロセスがあるのかお伺いします。</p>
<p>(2) 多摩市シルバー人材センターから、仕事を紹介してもらって働いている高齢者がいたとして、もしその高齢者に対して認知症の診断となった場合についてのシルバー人材センターの対応についてお伺いします。</p>
<p>(3) 高齢になると、認知症のあるなしに限らず、これから先も健康にいるための食事や運動方法などについて大変関心を持たれていると思います。食事や運動について、高齢者の方たちからはどのような質問が寄せられていますか。また、市として行っている取り組みがあればお伺いします。</p>
<p>(4) 認知症カフェの中には、ドローンを飛ばして参加者のみなさんと楽しむことを行っているところもあります。参加者の方たちがより楽しめるように、体育館などで飛行させることができないのかについてお伺いします。</p>
<p>2. ベルブ永山の学習スペースと市民活動環境の整備について</p>
<p>新型コロナウイルスの影響を受けて、働き方改革が進み、リモートワークや在宅勤務は一般的になりました。それに伴い、インターネット通信の重要性はますます高まっています。子どもたちにおいても、タブレット端末やパソコンを活用した学習が当たり前となり、オンラインでの授業や課題提出など、学校教育現場でも ICT 化が急速に進展しています。もはや、インターネット環境は子どもや若者、社会人を問わず、現代の学習や仕事に欠かせないインフラとなっています。</p>
<p>しかしながら、家庭内に十分なワークスペースや個人の勉強部屋がない、あるいは Wi-Fi 環境が整っていないという声も多く聞かれます。特に、団地や集合住宅など住宅事情により、自宅での静かな学習や仕事が難しいケースも少なくありません。また、友人同士や小グループで集まって勉強したいという希望もあり、こうしたニーズに対応する公共の場所の整備が求められています。多様なライフスタイルが広がる中、市民の生活や働き方への支援の在り方も見直されつつあります。多摩市としても、従来の発想にとらわれず、地域住民の新たなニーズに応えるための施設づくりが必要ではないでしょうか。以上のことをふまえて、以下質問します。</p>



# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和8年2月16日

多摩市議会議員 あらたに 隆見

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

## 質問項目

1 今こそ障害福祉に光を！

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和8年2月16日	No.13
	午前11時6分	

## 項目別質問内容

<p>1. 今こそ障害福祉に光を！</p> <p>先に行われました衆議院選挙では高市旋風が巻き起こり、高市自民党の圧勝という結果になりました。高市フィーバーの中、現実の私たちの生活を振り返れば、米をはじめ食料品・電気・ガス料金の上昇、円安による輸入品の高騰、実質賃金がこの物価高騰に追いつかない等、庶民の生活にとっては厳しい現状が続いています。遅れに遅れた物価高騰対策や円安の要因である日本財政への信頼回復を早急に行っていただきたいと思います。</p> <p>さて、選挙期間中もいくつかの障がい者団体の方のお話を聞く機会がありました。そこでお会いした方が、何となく大きな流れの中で、取り残されているような気がするといわれていました。確かに、世間の目は障がい者施策に光が当たらなくなったような気がします。</p> <p>私は今こそ基礎自治体の役目として、障がい者政策に光をあて、誰もが安心して暮らせるまちづくりに改めて力を入れていく必要性を感じ、今回の質問で取り上げることといたしました。</p> <p>現在の多摩市の障害福祉の状況や今後の取り組みに対する考え方などを中心に以下質問いたします。</p>
<p>(1) 「障害者差別解消法」が施行されて10年、また、「多摩市障がい者への差別をなくし共に安心して暮らすことのできるまちづくり条例」が施行されて5年以上が経ちました。条例制定後の多摩市の障害福祉施策としてどのように評価しているのか市長の見解を伺います。</p>
<p>(2) 高市政権になり、強い国・強い経済が強調され、障害福祉についてほとんど語られることがなくなりました。この現状を市長としてどのように感じられているのか、また、市民にとって一番身近な基礎自治体の長として障害福祉に対して、今後どのように取り組もうとされているのか伺います。</p>
<p>(3) 以前にも要望いたしました、DXの進捗として障害福祉の分野では、まだまだ遅れていると感じています。諸々複雑な手続き等が多い障害分野におけるDXの推進について、今後どのように取り組まれるのか伺います。</p>
<p>(4) 多摩市では2014年、今から12年前に第29回 全国失語症友の会 全国大会が開催されました。私たち公明党会派は本大会で発表された四日市市の先進的な取り組みについて現地視察を行いました。そこで失語症の理解の必要性、また、失語症の方の支援と取り組みとして、会話パートナーの派遣事業が効果的であることを学んできました。その後、会派で支援者や当事者の方とも意見交換を繰り返し重ね、この会話パートナー派遣事業について議会でも何度か取り</p>

## 項目別質問内容

上げさせていただきました。当時、多摩市では会話パートナーの人材不足で個別の派遣事業は出来ない状況でした。まずは、人材育成の取組み強化からスタートし、現在では東京都が行っている失語症者向け意養成カリキュラムを含め講習を受けた方も増えております。そこで、現行の会話パートナー派遣事業をさらに発展させ、本来の目的であった失語症の方の日常生活の支援のための個別派遣事業も本格的に始めるべきと思いますが、市の見解を伺います。

(5) 障がい当事者の日常生活の支援については家族の方が支えているケースがほとんどですが、「親なきあと」の問題は、障がいのある子どもを持つ家庭にとって、最も切実な課題の一つです。特に日本では、家族依存型の福祉構造が強いため、制度と現実のギャップが顕在化しており長期的な課題となっています。本課題に対しての市の取組状況や今後の進め方について伺います。

(6) 多摩市もいよいよ本格的にアイスランドとの交流がスタートしますが、アイスランドは世界の中でも障害福祉が進んでいる国といわれています。多摩市でも令和4年の障害者週間にアイスランドの義足メーカーとして世界的に有名な Össur (オズール) 社をむかえて講演会を開いたこともありました。アイスランドの障害福祉の特徴をどのように捉えているのか、また、今後多摩市として取組んで行きたい施策などがあれば伺います。

(7) 第三次多摩市特別支援教育推進計画がスタートいたしますが、第二次特別支援教育推進計画から変わった点とまた、新たに取り組まれる内容などがありましたら伺います。

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和8（2026）年2月16日

多摩市議会議員 しのづか 元

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

## 質問項目

- 1 市長施政方針について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和8年2月16日	No.16
	午前11時17分	

## 1. 市長施政方針について

## (1) 日本医科大学多摩永山病院の建替え協議のリスタートについて

この間、紆余曲折のあった日本医科大学多摩永山病院の建替えについて、東京都の協力も得ながら再協議にこぎ着けたことについては、市長をはじめ関係所管の皆さんの粘り強い交渉の成果であり、大いに評価を致します。

建替えの時期や場所、支援内容についてはこれからの協議の状況によるものと理解をしていますが、協議の進め方や体制など多摩市としての現時点でのお考えをお聞かせください。また、協議にあたっては永山駅周辺再構築のグランドデザインを示す必要があると考えますが、見解を伺います。

## (2) 医療提供体制と訪問医療・看護の充実について

三次救急を担う日本医科大学多摩永山病院の存続と共に、高齢化が急速に進む本市においては、地域医療連携と訪問医療・看護の充実が望まれると考えます。市民の健康と命を守る医療提供体制の整備についての多摩市としての見解を伺います。

## (3) 環境との共生、地球温暖化対策の推進について

多摩市では、令和6（2024）年度に都内の自治体としては初めて重点加速化事業の採択を受けて、2030年を目標にしたカーボンハーフの取り組みを進めています。目標を達成に近づけるためには更なる取り組みの充実が求められると考えます。これまでの取り組みの成果と今後の展開について伺います。

## (4) 活力・にぎわいの創出について

活力・にぎわいの創出に向けての取り組みは、令和7（2025）年度施政方針では、子ども関連施策や多世代共生型のコミュニティ実現に向けた環境整備、拠点駅周辺でのにぎわい創りなどが挙げられていました。このテーマは分野横断で取り組む重点テーマのため、様々なアプローチで重層的な取り組みが求められますが、やはり肝となるのは商工農業など市内産業の振興とニュータウン再生などのまちづくりだと考えます。企業立地促進条例の見直しによる宿泊施設誘致の見通しと尾根幹線沿道土地利用の検討状況、数年前から取り組んでいる永山駅周辺地権者との勉強会、東京都との諏訪・永山プロジェクト検討会議の進捗状況を伺うとともに、今後の展開についても伺います。

## (5) 交通ネットワークの維持・向上について

自動運転や空飛ぶ車など、未来の夢を実現に近づける取り組みも重要ですが、住民の高齢化はもっと早いスピードで進んでいます。2024年問題に象徴される働き方改革の影響や運転手のなり手不足による路線バス路線の廃止や減便が社会問題化している状況で、市民、特に高齢者の足の確保策は喫緊の課題だと考えます。既存地域とニュータウン地域という都市基盤の異なる本市において、選ばれる交通手段も変わってくると思いますが、今後あるべき交通ネットワークについての見解を伺います。

(6) 子育て世代に選ばれるまちについて

こどもひろば OLIVE の開設や、たまこどもフェスの開催、多摩市こども誰でも通園事業など、子育て環境の充実は進んでいます。ここ数年の傾向として依然として変わらないのが、市内認可保育園の待機児の発生と空き定員の発生の地域的な偏りです。このミスマッチを解消し、市内のどこに住んでも安心して子育てができる環境整備をと以前から送迎保育ステーションの設置を提案していますが、その後の検討状況はいかがでしょう。

(7) 第六次多摩市総合計画改定について

新たな将来都市像「つながり 支え 認め合い いきいきと かがやけるまち 多摩」を掲げ、令和5（2024）年度に策定された第六次多摩市総合計画も4年目を迎え、来年度は改定作業に着手する年度となります。これまでの取り組みをどのように総括し、またこの間の社会情勢の変化をどう捉えて改定作業に取り組むのでしょうか、現時点でのお考えを伺います。